

第一講 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点50)

なにがしの娘、成人するままに、女房たちあまた付け侍る。ここに、いづくともなく、

いと^イあてなる女、一人たたずみて、(注1)宮仕への望み侍る由言ひければ、「幸ひ、御内

にこそ、御身のやうなる人を尋ね侍るなれ。(イ)いざ給へ。(注2)北の御方にかくと申さん」

とて、言ひければ、すなはち留めて置かれけり。かの宮仕への、心に入りたることはさて

置き、絵描き、(注3)花結び、手跡美しく、縫ひ物などは織女の手にも劣るまじく、物の色

合ひなど染め出だせることは、A 竜田姫も恥ぢぬべきほどなり。

ある時、北の方、女の部屋をウ(イ)かいま見しに、夜いたく更けて灯火かすかなるに、おの

れがくびを取りて、前なる鏡台にかけ置きて、(注4)鉄漿をつけ、化粧して、またわが身に

継ぎて、さらぬ体にてぞぬたりける。B 恐ろしとも言はん方なし。

さて、主あるじの殿とのに、「かかること侍るをば、いかが計らひ給ふぞ」と言へば、「まづ何となく暇いとひを出だせ」と言ふほどに、女を近づけ、「注5近ごろ言ひかね侍れども、人多く侍れば、
『一人も二人も暇を出だせ』とのたまふ間あひだ、そなたのやうなる重宝ちゆうぼうの人はましまさぬほどに、いつまでもと思へども、いづれも注6譜代の者にて、暇出だされぬ者どもなれば、まづまづいづ方へも出でられ候へ。そのうへ、夫の命背めいせいきがたく侍れば、重ねて娘嫁入りの折節は迎へ侍らん」と言ふ。

15

その時、女、気色けしき変はりて、「さては、何ぞ御覧じて、かく仰せ候ふやらん」と、そばへ近く居寄ゐよれば、「その方は何事を言ふぞ。またやがてこそ呼び侍らめ」と、さりげなくのたまへども、「いやいや、注7曲まがもなきことなり」とて、飛びかかりけるところを、男、かねて心得けるにや、後ろに立ち添ひけるが、刀を抜き、はたと切る。切られて弱るところを引き直し、心のままに切れば、年経たる猫の、口は耳まで切れて、角生かどひたるにてぞお

20

はしける。その名を、竜田姫と言ひ侍るとぞ。

〔『曾呂利物語』による〕

(注) 1 宮仕へ 貴人の家に仕えること。 2 北の御方 貴人の妻のこと。「北の方」も同じ意味。

3 花結び 糸や紐を花などの形に結んで、飾りとすること。女性のたしなみの一つであった。

4 鉄漿をつけ お歯黒をつけ。成人女性などが歯を黒く染める風習があった。

5 近ごろ 非常に。 6 譜代の者 その家に代々仕えてきた者。

7 曲もなき 情がない。つれない。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の解釈として最も適当なものを、次の各群の 〃のうちから、それぞれ一つずつ選べ。(4)×3

(ア) あてなる 寂しそつな 愛嬌のある あでやかな 上品な 輝くばかりの

(イ) いざ給へ さあ、それをください さあ、早くしてください

さあ、おっしゃってください さあ、そこで待っていてください

さあ、こちらへおいでなさい

(ウ) かいま見しに 物陰からこつそりとのぞき見たところ 時間をかけて観察したところ

ちよつと見ただけなので 用事のあいまに見たので

すみずみまで見渡してみると

問2 二重傍線部「出でられ候へ」の文法的説明として最も適当なものを、次の 〽 のうちから一つ選べ。(7)

- 「出で」は動詞、「られ」は尊敬の助動詞、「候へ」は謙譲の補助動詞の已然形。
- 「出で」は動詞、「られ」は自発の助動詞、「候へ」は謙譲の補助動詞の已然形。
- 「出で」は動詞、「られ」は受身の助動詞、「候へ」は謙譲の補助動詞の命令形。
- 「出で」は動詞、「られ」は自発の助動詞、「候へ」は丁寧の補助動詞の命令形。
- 「出で」は動詞、「られ」は受身の助動詞、「候へ」は丁寧の補助動詞の已然形。
- 「出で」は動詞、「られ」は尊敬の助動詞、「候へ」は丁寧の補助動詞の命令形。

問3 傍線部A「竜田姫も恥ぢぬべきほどなり。」の「竜田姫」とは、木の葉を色美しく染め上げる秋の女神のことである。これを

踏まえた傍線部Aの具体的な解釈として最も適当なものを、次の 〽 のうちから一つ選べ。(7)

染色の女神である竜田姫の技量はさすがに立派で、すぐれた腕前を誇る女でさえ、思わず恥ずかしくなってしまうようなほどである。

染色の女神である竜田姫の技量はさすがに立派で、すぐれた腕前を誇る女に対しても、決して恥じる必要のないほどである。
染色の女神である竜田姫に対してさえ、その腕前を恥ずかしく思う必要がないほど、女の技量はすぐれたものである。
染色の女神である竜田姫でさえ、自分の腕前を恥ずかしく思ってしまうようなほど、女の技量はすぐれたものである。
染色の女神である竜田姫から見れば、思わず恥ずかしくなってしまうほど、女の技量は何とも稚拙なものである。

問4 傍線部B「恐ろしとも言はん方なし。」の解釈として最も適当なものを、次の 〽 のうちから一つ選べ。(8)

恐ろしさのあまり、言葉を口にすることもできない。
その恐ろしさといったら、何とも表現しようがない。
自分の感じた恐ろしさを、伝えることのできる人がだれもない。
その恐ろしさを他人に知らせたくても、連絡する適当な方法がない。

そのことを恐ろしいと言わない人はだれもない。

問5 傍線部C「かねて心得けるにや、」の解釈として最も適当なものを、次の 〃 のうちから一つ選べ。(8)

以前から、緊急時のために刀を磨き剣術の鍛練につとめてきたのであるうか、

前もって、女が何か危害を加えるかもしれないと予想していたのであるうか、

以前から、女の正体が化け猫であるという確信があったのであるうか、

前もって、北の方からの依頼を受けていたのであるうか、

以前から、自分の出てゆく機会をうかがっていたのであるうか、

問6 本文の内容と合致するものを、次の 〃 のうちから一つ選べ。(8)

女は、はじめから北の方にとって気に入らない点もあったが、女房としての能力は優れていた。

女は、夜に化粧をしている時は、正体をあらわして角の生えた猫の姿になっていた。

主の殿は、北の方から報告を聞き、みずから女に屋敷を出てゆくように命じた。

北の方は、本当は女を手放したくなかったのだが、しぶしぶ夫の言葉に従った。

女は、暇を出すと言いわたされた時に、自分の秘密が露見したらしいと直感した。

【語句】 ここにあるすべての単語は、入試の必須古語です。せっかく講義で説明を聞いたのだから覚えて下さい。また、ここに
取り上げていなくても、講義の際のホワイトボード上で、青地だった単語は重要古語です。徐々に覚えていって下さい。

1 女房… (「房」は部屋の意) 宮中で局(つぼね) (= 部屋) を与えられ妃(きさき)に奉仕した女性 貴族などの家に仕える女性 女性・婦人

妻

1 はべり【侍り】… (謙讓・本動詞)(貴人の)側近く控える・お仕える (丁寧・本動詞;「居り」「あり」の丁寧語)あり

候らふ ます・おります・ございます (丁寧・補助動詞)…です・ます・ます・ございます

2 あてなり【貴】… 高貴だ 上品だ

3 いざ給へ… (相手に同行などを促すことば) さあ、いらっしやい・さあ、どうぞ

7 かいまみる【垣間見る】…覗き見る

12 体+あひだ… ので

12 体+ほどに… すると・するうちに ので・から

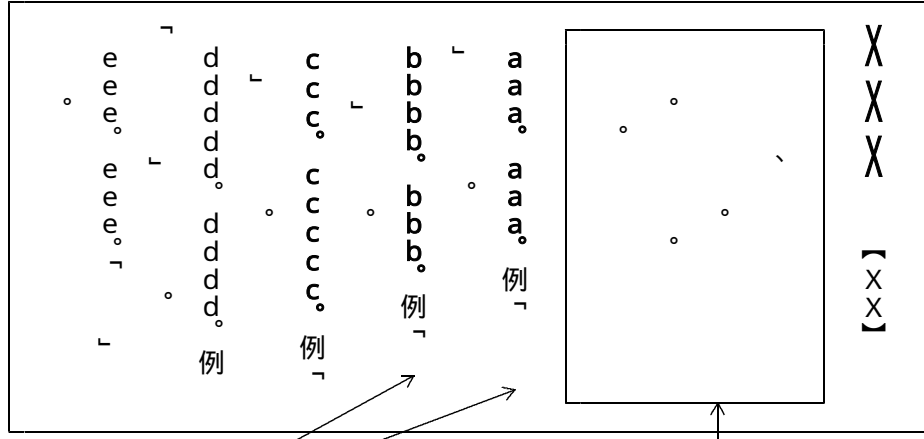
16 「けしき」【気色】 (自然の) ようす。景色。趣。



機嫌。気分。心地。 (「けしきあし」)

考え。意向。

【辞書】



語感（その語の中心的意思・イメージ）

いろいろな訳し方の候補

*用例（その訳）もじっくり読むこと

古文読解のために

【指示語に注意】

指示副詞 → 複合ラ変動詞 → 体

- | | | |
|------------|------------|------------|
| さ (然) ^ソウ | さり ^ソウデアル | さる ^ソノヨウナ |
| しか (然) ^ソウ | しかり ^ソウデアル | しかる ^ソノヨウナ |
| かく (斯) ^コウ | かかり ^コウデアル | かかる ^コノヨウナ |

いったいドウナノカ内容を明らかにすること

【「疑問・反語」「態様・方法」を表す副詞「な系」「いか系」】

何な

(ん)ど(ん)に
(ん)でふ

て か ぞ

て か ぞ

…疑問・反語
^どうして…(いや…ない) <

如何い
如何か

んでにが

か ぞ

か ぞ

…態様方法を問う
^どう…どのよう <
…疑問・反語
^どうして…(いや…ない) <

体で
結ぶ

*いかに系・いかにして系…意志・希望・願望の時
^なんとかして…どうにかして… <

【助動詞「る」「らるる」】基礎古文「より」

22
る

23
らるる

らる	る							
られ	れ	未	用	止	体	已	命	
られ	れ							
らる	る							
らるる	るる							
らるれ	るれ							
られよ	れよ							
下二	下二							型

a 段音

接続…「る」…四段・ラ変・ナ変の未然形（四ラナ未）と覚えよう

「らるる」…それ以外の未然形

意味…イ 自発（自然と・無意識にある動作が生じる）（ラ）レル・サレテナライ・シマウ

ロ 受身（他からある動作を受ける）（ラ）レル

ハ 可能（動作が実現できる）（ラ）レキル

ニ 尊敬（動作主への敬意を表す）（ラ）ナサル

「る」「らるる」意味の識別は文脈 4つの意味で訳し分けて、いちばんしっくりくるやつ

文脈で判断するってどういふ意味か知っていますか。なんとなく前後を読んだら天から答が降ってくると思っていませんか？ 違いますよ。たとえば、その

助動詞に4つ訳し方があるとすれば、前後含めて4通りで訳してみるのは、その中でいちばんすっきり意味が通じる訳を選ぶ、ということなんです。いいです

ね。だから、「る」「らるる」があれば、前後含めて4通りで訳してみてください

文末の「にや／か」 文中で挿入句のこともある「にや・か、」

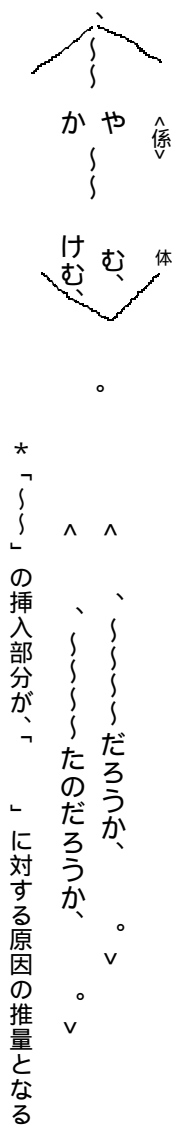
「(体言) or 体 + にや／か。」 とりあえず、「」であるつか・であったらるか」と訳してみよ
 ^
 であるつか
 であつたたらるか
 OKなら



^係疑問・反語

(体言) or 体 + に や／か (あらむ) ^ であるつか。(いやそつではない)
 断定「なり」用 (ありけむ) ^ であつたたらるか(いやそつではない)
 が省略 ^ ではないるか。(そつだよ)
 コッチの訳がピッタリくることもある

挿入句



【通 釈】

なんとかかという人の娘が、成人したので、(親が)女房たちを大勢付けました。そこに、どこからともなく、たいそう上品な女が、(やってきて家の前で)たたずんで、(この家へ)出仕の希望がありますという旨のことを言ったので、(その家の者が)「幸いなことに、御奥むき(＝奥方や姫君のところ)で、あなたのような人をお探しだそうです。さあ、いらっしゃい。奥方様にこういう人がいますと申し上げましょう」と言って、(奥方に)言ったところ、(奥方は)そのまま(その女を)引き止めて(侍女として)置きなされた。その女の仕事ぶりが、(奥方の)気に入ったことはもちろん、絵を描いたり、花を結んだり(もでき)、字は美しく、縫物などは織女の腕前にも劣ることはないだろうほどで、布の色合いなどを染め出したのは、(染色の女神)、竜田姫でも(この女の前では)恥ずかしがりそうなほどである。

ある時、奥方が、女の部屋をこっそりのぞき見たところ、夜がたいそう更けて灯火の明りがかすかなところで、(女が)自分の首を(体から)取り外して、前にある鏡台に掛けて置いて、お歯黒をつけ、化粧をして、再び自分の体に取り付けて、何でもない様子で座っていた。言いようもなく恐ろしいものであった。

それで、主人の殿に、(奥方は)「これこれこういうことがございますが、どうとり計らいなさいますか」と言うと、(主は)「とりあえずそれとなく(女に)暇を出せ」と言うので、(奥方は)女を呼び付け、「まことに言いかねることでありますが、(わが家には)人手が多くありますので、(主人が)『(使用人の)一人でも二人でも暇を出せ』とおっしゃるもので、あなたのような役に立つ人はいらっしゃいませんので、いつまでも(いてほしい)と思えますけれど、(他の使用人は)いずれも(当家に)代々仕えてきた者で、暇を出すことのできない者たちであるので、ひとまずは(あなたが)どこへでも出て行ってください。その上、(今は)夫の命令に背くことができませんので(いったんあなたにはこの家を出て貰って)、再び、娘の嫁入りの時には(あなたを)呼び返しましょう」と言う。

その時、女は、顔色が変わって、「さては、何か御覧になって、このように仰せになるのでしょうか」と、(奥方の)側近くへにじり寄るので、(奥方は)「あなたは何を言うのか。またすぐに(あなたを)呼び寄せるつもりですよ」と、さりげなくおっしゃるけれども、(女は)「いやいや、(私をくびにするなんて)冷たいことではないか」と言って、飛びかかろうとするところを、男(＝主の殿)が、前もって(女が何か危害を加えるかもしれない)予想していたのであるとか、(そっと)後ろに立ち添っていたのだが、

(その時) 刀を抜き、(女を) はっしと斬る。(女が) 斬られて弱ったところをこちらを向かせ、思っ存分斬ると、(女は実は) 年経た猫で、口は耳のあたりまで裂け、角の生えた猫でいらっしやった。その名を、竜田姫といいます、ということですよ。